

15期 還暦同窓会

15期 舟田 節子

締切の10日を2週間以上過ぎていますが、同期会自体が11月26~27日の開催でしたので…。苦勞した幹事が報告までやればいいんですが、筆の走る私が、さらにゴーインを通したうえでないと、とても掲載に至らない！と報告します。

同期最後のめでたい結婚披露宴の後、「このままでは再会の機会がなくなる」と始まった15期同期会は、無事に26回目＝京都大原での還暦同期会を迎えることになりました。

「無事に」といっても、その間には高村栄一さん、比田井<旧姓石田>忠篤さん、横井昭次さん、そして東日本大震災の翌日に渡辺純久さんを失っています（宇野夫人<旧姓山田>和子さんも）。

何より、一回生の新トレで、（私の場合まだ同期の認識もないうちに）桂茂樹さんを失うというアクシデントからスタートした仲間達でした。部の存亡の危機と立ち上がってくれた諸先輩方にも育てられ、その勢いのままに活動域を広げて、現役時代を謳歌していたと思います。卒業後にも早々と仲間達を失うことになっ

てしまいましたが、震災後、最強のキーワードである「絆」の価を彼らは私達に悟らせ、同期会をさらに支えてくれたに違いありません。

「同じ釜の飯を食った仲間」という言い方をダサイと考えた時期が自分にもあります。しかし、いざ還暦まで来みると、子供を通してのご縁は子供の卒業で消え、仕事での付き合いも退職すれば消える…もちろん子供の結婚で増える付き合いや、孫で広がる世界もあるのですが…。何と云うか、自分探しにウロウロしていた頃の仲間というのは、そういうことを一緒に客観視して、笑い合い、励まし合い、「さあ、また元気に生きていこうぜ」がやれるものなのですね。

それこそ、近況報告に、子供の入試、就職、結婚が加わり、さらには娘の里帰り、孫守、親の介護・見送り、退職、年金、住まいのリフォーム…。同じ時代を生き、同じ波を乗り越えながら生きている…なおのこと、同調していけるのかもかもしれません。

ですから、アフリカのキリマンジャロに挑戦した私の報告より、「前座・前座！」で始まった松林さんの「四国お遍路結願報告」の方がはるかに受けました。「15期お遍路PWを何回かに分けてやるか？」

の話も出ていました。もっとみんなが暇になったら、それも実現可能かもしれません。もっとも同行二人の清々しい境地とは程遠く、響感を買いそうな予感がします。



さて、会場は京都大原寂光院のすぐ手前の大原山荘でした。三宅メイン幹事が早々に確保してくれたお陰で紅葉真っ盛りの最高のロケ - ション。渋滞や溢れる人並みを抜けて、無事全員集合できました。そのうえゴ - インに、宴会も、上映も出来る部屋を特注してありました。大原地鶏のすき焼きを、大原地鶏の卵に浸しながら戴きます。法事のため、夜行で帰宅するという坂尻さん夫婦の都合で、早々に近況報告を始めたものの、どなたも時間オ - バ - 。それは還暦ということ（もちろん、昨年でお済みの方も）年金暮らしが始まった方や、節目報告が多かったせいもあります。奥様方には「主夫」誕生を待ち兼ねていた方も多かったようで、実際、男性陣はワングルのキャリアを大いに活用しているようでした。また、体調や健康管理の話題が増えたのも年相応といったあたりでした。

久しぶりにワングルソングが登場。それも、11期 加藤さんが編集して下さったものに、三宅幹事がさらに 15 期好みの歌を追加して用意してくれたCDと歌詞カード。芹洋子のリズムは記憶とは少々違っていたけれど、これから、もっと口ずさむシ - ンが増えそうです。そして、赤頭巾、チャンチャンコの写真も撮りました（これはOB会近畿支部の影響大）。

翌日は、三千院へ移動。みるみる増えていく人込みに圧倒されつつも、まだ空いているといえるうちに、拝観することができました。間所写真係、宇野三脚付

き記録係により、そこらじゅうで記念写真を撮り、予約の料亭で上品な弁当昼食を戴いて、14 時解散。その晩には、もう写真が送信されて、楽しかった時間を反芻できました。

我が家の場合、夫の奈良での学会出席もあり、三百名山の葛城山と比叡山登山も追加した欲張り旅行でした。渋滞と駐車場なしのせいで、安易な登頂しかなかったのですが、夫は帰宅後「芹洋子の歌が好きだから」と、例のCDをコピーして赴任先へ持って行ってしまいました。私の薫陶(?)で、笈も毛勝も、三大雪渓も、三大急登も登ってしまい、花も断然詳しくなってしまった旦那... (地元ガイド本ではアッシ - とカメラマンをやっています)。

しかし、ワングルソングが歌えないのが、最後まで「違い」で残るのだろうなと思っていました。え~?!

一緒に歌える日が来るの!! なおのこと、感謝でいっぱいになった還暦同期会です。

最後は我らが主将であった間所さんの送信文で締めることにします。

「出会った頃は、還暦の祝いをみんなで迎える時が来るとは想像も...。来年又元気にお会いしましょう！」

